



教養・運動・交流の 三拍子

川崎市麻生区 小関 新

歴史に特別な興味があつたわけではない。ただ、なんとなく面白うだと思い、ひまつぶしの気持ちで参加してみた。

ところが、これが思いのほか楽しかった。小雨の中、9名が集まり、地元ガイドの案内で旧東海道沿いの史跡を巡るうちに、まるで江戸の町に迷い込んだような気分になった。地元の歴史に「ほ～なるほど」とうなづいて話を聞いた。3時間で約4kmの行程は、教養・運動・交流の三拍子揃った企画だ。しかも参加費はお手頃で、傷害保険付きの1,000円。帰る頃には参加者同士すっかり打ち解け、和やかな雰囲気に包まれていた。

一句「濡れる道 おでんが匂う 寺の裏」—思いがけず心あたたまる時間となった。



ガイドの解説を熱心に記録する小関先生(左端)

事後抄録

歯科特別研究会

認知症が疑われる 患者への対応



歯科研究部は10月31日、歯科特別研究会「認知症が疑われる患者への対応」を開催。講師は東京医科歯科大学名誉教授・下山和弘氏が務め、70名が参加した。以下、事後抄録を掲載する。

認知症患者との信頼関係をつくることが大切です。そのためには4大認知症や軽度認知障害の特徴を理解する。

認知症患者の中核症状（記憶障害、失語、失行失認、実行機能障害、見当識障害、理解力・判断力の低下）やBPSD（徘徊、暴行・暴言、介護拒否など）について理解すること。

認知症患者が問題行動を起こすのは、なんらかの問題に対するSOSと考えら

れてています。認知症患者が問題行動を起こすのは、なんらかの問題に対するSOSと考えられます。認知症患者にとって、認知症の中核症状（記憶障害、失語、失行失認、実行機能障害、見当識障害、理解力・判断力の低下）やBPSD（徘徊、暴行・暴言、介護拒否など）について理解すること。

認知症患者には理由があります。認知症患者にとって、認知症の中核症状（記憶障害、失語、失行失認、実行機能障害、見当識障害、理解力・判断力の低下）やBPSD（徘徊、暴行・暴言、介護拒否など）について理解すること。

事後抄録

歯科特別研究会

認知症が疑われる 患者への対応



歯科研究部は10月31日、歯科特別研究会「認知症が疑われる患者への対応」を開催。講師は東京医科歯科大学名誉教授・下山和弘氏が務め、70名が参加した。以下、事後抄録を掲載する。

認知症患者との信頼関係をつくることが大切です。そのためには4大認知症や軽度認知障害の特徴を理解する。

認知症患者の中核症状（記憶障害、失語、失行失認、実行機能障害、見当識障害、理解力・判断力の低下）やBPSD（徘徊、暴行・暴言、介護拒否など）について理解すること。

認知症患者が問題行動を起こすのは、なんらかの問題に対するSOSと考えら

れてています。認知症患者にとって、認知症の中核症状（記憶障害、失語、失行失認、実行機能障害、見当識障害、理解力・判断力の低下）やBPSD（徘徊、暴行・暴言、介護拒否など）について理解すること。



『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』
著者：帚木 蓬生
朝日新聞出版、2017年4月、1,430円（税込）

帚木蓬生氏の『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』（2017年刊）は、悩める多くの現代人に読んでいただきたい福音書である。

筆者は本文中で、ネガティブ・ケイパビリティの意味、出ない事態に耐える力』と述べている。この言葉、概念が初めて登場するのは、1817年、詩人であるギーツが弟

は、「性急に証明や理由を年、詩人であるギーツが弟」と言われるもので、医師にはもちろん必要な思考の一

リティ」は、自分の内に対してだけではなく、他者と関わる際にも必要不可欠であり、医療や教育の現場でしている。患者さんは、医師を見守られている（自薬）

たちは宛てた文面の中であり、キーツがその生涯でこの状況であつても、患者やの言葉を用いたのはただ1

家族の側に立ち、寄り添い、彼らの話に耳を傾け続ける姿勢である。

筆者は精神科医でもある、このような医師の姿勢

え何もできない寂寥りん

文化部
ハイキング

旧東海道、 保土ヶ谷宿を巡る

10月26日、文化部は歴史散策「旧東海道、保土ヶ谷宿を巡る」を開催。NPO法人保土ヶ谷ガイドの会の案内のもと、約4・3kmの行程を約3時間かけて歩いた。会員や家族ら9名が参加した。序盤は小雨がちらつく雨模様で、途中から雨は上がったものの、曇り空で肌寒い中でのハイキングとなつた。

コースは、天王町駅前公園からスタート。かつて約27mの長さを誇った、保土ヶ谷宿を代表する風景とし、北斎や広重らの浮世絵に描かれた帷子橋の跡を皮

提寺である大仙寺、さらに

は問屋場・本陣・旅籠跡な

届いたので掲載する。

当日の参加者から感想が



【ハイキングコース（約4.3km。一部省略）】天王町駅前公園（旧帷子橋。集合：9時15分）～橋樹神社～旧古町橋跡～YBP（横浜ビジネスパーク）～神明社～見光寺～大蓮寺～助郷会所跡～高札場跡～本陣跡～大仙寺～JR保土ヶ谷駅（解散：12時頃）

『ネガティブ・ケイパビリティ 答えの出ない事態に耐える力』を読んで

書評

鎌倉市 湯浅 章平

筆者は本文中で、ネガティブ・ケイパビリティの意味、出ない事態に耐える力』と述べている。この言葉、概念が初めて登場するのは、1817年、詩人であるギーツが弟

は、「性急に証明や理由を年、詩人であるギーツが弟」と言われるもので、医師にはもちろん必要な思考の一

リティ」は、自分の内に対してだけではなく、他者と関わる際にも必要不可欠であり、医療や教育の現場でしている。患者さんは、医師を見守られている（自薬）

たちは宛てた文面の中であり、キーツがその生涯でこの状況であつても、患者やの言葉を用いたのはただ1

家族の側に立ち、寄り添い、彼らの話に耳を傾け続ける姿勢である。

筆者は精神科医でもある、このような医師の姿勢